



来年度予算執行は国の言うなりのDX推進や大企業優遇政策でなく

住民の福祉の増進、市民要望の実現こそ重点項目に

※政務活動費を活用して作成しています

日本共産党 市議団だより

2023.2.1 第7号 11月定例会 報告号

〈発行〉 掛川市議会 日本共産党 議員団 掛川市長谷 1-1-1 〈連絡先〉 勝川しほこ 22-1325 大井 正 090-9918-4515 ご意見・ご要望 お寄せ下さい



①子育て支援で少子化を食い止めよう

学校給食費の無償化を。少子化対策として主食費、2人目からなど部分的でも所得制限のない制度を。

- 所得制限を外すことは難しいが、無償化の対象の範囲を広げることを検討中。【教育長】
医療費の完全無償化は措置したいと考えている【市長】

3才未満児の保育料の無償化で仕事をしながらの子育てを応援して。

家庭で保育する人との公平性がある。第2子半額、第3子は無料【こども希望部長】

“こどもは社会で育てる”という意識改革が必要です。

児童数の3、4割の需要に見合う学童保育整備の計画を早急に立てて取り組むべき。国基準を守り、指導員の処遇改善も。

学校再編の整合性も図りながら、計画を策定する。緊急に必要なところには柔軟に対応する。【教育長】

学校再編待ちなんてとんでもない。待たなしの課題です。

②補聴器購入助成制度をよいものに

来年度からの補聴器購入助成制度の導入にあたり、対象を広く利用しやすい制度に。

- 難聴への取り組みは認知症予防にも有効。早期に難聴の改善に取り組める制度になるよう検討中。【市長】
年齢制限は65才より若い世代から、所得制限も緩める。【健康福祉部長】



③市民負担の軽減と市民の利用しやすい施設、市役所に

公園や街路樹、川の法面などの草刈りや落ち葉処理などを自治会任せにせず、責任ある対応を業者委託も広げられないか。

- 市民の負担が少しでも軽減できるような方策を進める【市長】
落ち葉は2つの課が別々の対応してきたので、統一し一本化する。【都市建設部長】
ごみの減量化と市民協働という2つの観点からアプローチしていく。【協働環境部長】

市民が納得できるように早急に対策を練っていただきたい。

生涯学習センターのフロアの段差解消を。

調査を行ない今後の施設のあり方について再検討する。(現場は) 放置できないので補修と注意喚起を合わせて行なう。【協働環境部長】



点字ブロック上にも



4cmほどの段差

市役所の窓口に定年延長なども利用して、ベテラン職員を総合相談役として配置できないか。

よいアイデアとして検討する。【市長】

ベテランがいてねいに相談に乗ってくれる市役所こそ市民は求めていると思います。

・・・代表質問の中で緊急のコロナ対策についても質問しました・・・

市民の命と健康を守るためのコロナ対策について



年末年始の検査医療体制を整え第8波に対応を。特に情報の届きにくい人に配慮を。

7波の教訓から年末年始小笠掛川急患診療所に発熱外来を設ける。検査キット配布の年齢拡大や回数制限の緩和も。【市長】

子どもたちのストレス軽減を。現場に独自ルールを持ち込まないで。

マスク屋外原則不用、黙食の見直しなど国のマニュアルに従って学校を通じ保護者にも指導していく。【教育長】

◎11月臨時会(11/8)が 開催されました

家代の里地内緑地を市が誤って売却した問題で、損害賠償を求めて争われている裁判の判決が10/27地裁であり、市はこの判決内容の一部を不服として控訴するための議決と弁護士費用補正予算を議会に求めました。判決文を開示要求して審議。損害賠償額の減額を求めての控訴を認めました。こうした誤りの再発防止と市民の信頼回復に努めてほしいと考えます。

●瑕疵による土地売却額 1001万8080円

●損害賠償請求額 2億6172万6675円

●今回の判決額 3577万9719円

●土地取得 1995万8871円

●測量支援・土地調査費 185万8400円

●弁護士費用 321万6338円等

台風15号の災害復旧予算、物価対策市民生活等支援、出産一人あたり10万円を支給する子育て応援給付金、各会計の決算に伴う補正予算

1、2月の水道料金の基本料金を免除する措置などは以前よりコロナ対策として求めていたものでもあり、水道を利用する事業所への支援ともなります。国が決めた事業でありながら市の負担となるものもあり、問題を感じていますが、大枠として補正に賛成しました。

◎職員の不祥事への 対応に関する決議(11月定例会)

市民の信頼を損なう相次ぐ市職員の不祥事の発覚を受け、女性議員を中心に決議を挙げることを提案しました。

男女共同参画、ダイバーシティ(多様性)を掲げる市として、再発防止、良好な職場環境作り、職員の安心安全の確保は、必須です。情けない事件は二度と起こさない決意で取り組んでいきたいと思ひます。